



つぐみ

登本仁田山
王子雲

天破岳山今日登
稜峰雲海聞啼鶴
汗淋徒臉多滴落
來冷于頬一陣風
山路太長辛苦続
人生刻短過通空
可能如果欲快到
為頂給人希望光

「吟」

登本仁田山 王子雲

天を破る岳山を今日登り、稜峰雲海に鶴
(つぐみ) 啼くを聞く 汗淋(がんにん)
臉(れん) より多滴(どうてき) 落ち、頬に
一陣の風が来て冷(すずし)い 山路は太
長(たいちよう)にして辛苦(しんく) 続く
が、人生の刻短く通り過ぎ空しい 如果
(もし) 可能ならば、快到(かいとう)を欲
す 頂は人に希望の光を給(くれる) 為

「字義」

- ・啼 動物が鳴く ・鶴 つぐみ
- ・汗淋 汗だく ・徒臉 顔から
- ・于頬 頬に ・冷 涼しい
- ・一陣 風の量詞 ・太長 大変に長い
- ・辛苦 辛い ・刻 時間
- ・如果 もしも ・快到 早く着く
- ・給人 人に与えられる

「意味」

天を破るような高い山をきよう登れば、稜
峰の雲海に鶴(つぐみ)の啼くのを聞く。
汗だくで顔から多滴が落ち、頬(ほお)に一
陣の風が来て涼しい。 山路は大変に長く辛
く続くが、人生の時間は短く通り過ぎ空しい。
頂は人に希望の光をくれるから、もし可能
であれば、早く着きたいものだ。

東京秋工会ハイキング同好会で、東京奥多
摩の本仁田山に行ったのですが、急な登り一
辺倒の山路をただただひたすらに登り、衣服
は汗まみれになったのを漢詩にしました。
詩は3・4句と5・6句に対句を置いて、近
体詩の形にまとめました。

2011年9月作【王子雲】